

田崎マジック！ 一期一会のセミナー

田崎悦子『JOY OF MUSIC 2008 in 八ヶ岳』

真嶋雄大 ● 音楽評論家



オープンレッスンは、参加者にとっても聴講者にとっても充実した場



ディナー&ディスカッション



バーベキューを楽しむ参加者たち



ファイナル・コンサートでは、数日間の成長ぶりに驚かされることに

バッハから20世紀までの名曲を辿るシリーズ「ピアノ大全集」を進行中の田崎悦子にとって、コンサート活動と同様、限らない情熱を傾けるのが「Joy of Music (以下JOM)」である。これは田崎自身が音楽総監督を務めるピアノのためのセミナーだが、そんなじよそこの公開セミナーと同列にみなしたら大間違い。ピアノを育てるといふより、人間形成に重きを置

いた類稀な一期一会でもあるからだ。日本音楽コンクール審査員や、桐朋学園大学で特任教授も務める田崎は、以前から日本の音楽教育の現状を憂えていた。指は廻るが心に伝わるもの表現できない若いピアニストたち。自分でも気づいていない才能をいかに引き出してやるか、どう感動を伝える音楽を創りあげていくか。そういう危機意識から生まれたのがJOMである。

山梨県清里高原という大自然を舞台に繰り広げられるのは、ピアノのレッスンだけではなく。西洋音楽的な耳を訓練する「イヤヤー・トレーニング」、自然の中の散策、農業体験、美術鑑賞、そして参加者や聴講者を含めたディスカッションと、きわめて充実した内容が用意されている。すなわち1日の生活自体がセミナーと言って過言ではない。

そして田崎のレッスンは鮮烈なマジック。言葉と全身をフルに活用して生徒のイマジネーションを掻きたてていく。それにより、生徒自身も気づかなかった己の表現力、豊かな表情が際立ってくる。それは傍目からも顕著で、音楽の表情が芳醇に変化するたび、聴講者からもどよめきが起こる。そうやってひとつひとつ、丁寧な音楽が創り出されていくのだ。

この日は、村田茉莉花(小4、愛知)、坂本リサ(小6、福岡)、寺尾鞠花(中1、三重)、坂本彩(中3、福岡)、青木ゆり(高1、大阪)、余田愛子(高1、京都)、住廣美沙都(高2、東京)、熊頭美智子(高2、仙台)、白藤望(高2、奈良)、柿田彩夏(高2、京都)、藤田健夫(高3、長崎)、黄俊豪(大1、東京)、小林侑奈(大3、山梨)、美世真里菜(大3、神戸)、村上真希子(大4、和歌山)、カーシヤ・ピエラック・フープス(チェロ、大卒、コロラド州・特別出演)の16人14組が、シニエルトの即興曲やショパンのバラード、リスト「ハンガリー狂詩曲」やベートーヴェンのソナタ、そしてモーツァルト「4手のためのグランドソナタ」やショパン「チェロとピアノのための華麗なるポロネーズ」など、多彩な楽曲を見事に演奏していたが、驚かされたのは、単に技術的に優れているだけではなく、小学生ですら魂がこもった音楽の表現者への道を歩んでいたことである。

3月23日スタートしたセミナーは、29日長坂町コミュニティ・ホールにおける「ファイナル・コンサート」で有終の美を飾る。23日のオープン・コンサートを聴いた人は、受講生全員のため1週間での見違えるべき成長